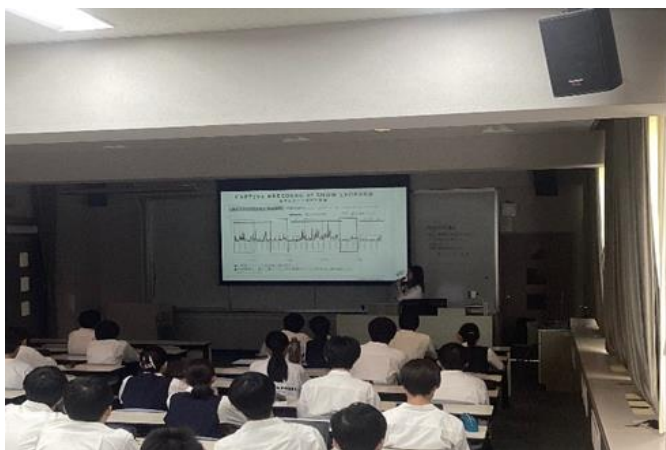


特設科学[野生動物を研究するとは？～ユキヒョウを例に～]

10 月 10 日（金）、京都大学の木下こづえ先生をお招きし、「野生動物を研究するとは？～ユキヒョウを例に～」というタイトルで、2 年生 GS 科の生徒を対象にご講演いただきました。

ユキヒョウという名前を聞いたことや、動物園で見たことがある生徒はいるものの、多くの生徒にとってその生態について初めて学ぶ機会となりました。研究を進めるためには様々な準備や忍耐力が重要であることを改めて感じたとの声が多くあがりました。生徒たちが今後の探究活動に根気強く臨んでくれることを期待します。



生徒たちの声

今回もとても面白いと感じる講義でした。自分は他分野に比べて生物にあまり興味がなく、ユキヒョウの生態なども知らなかったけど、今日の講義を聞いてユキヒョウの生態や住んでいる環境などを知ることができ、また野生動物の研究をすることで動物と人の密接な関係を知ることができたということがわかりました。野生動物の研究についての書物を読んでみようかなと思いました。

とても興味を引かれた講義だった。人生を懸けて研究をする、ということはまさにこういうことなんだな、と感じて、自分はフィールドワークには興味はなかったが、こうやって自分の身を研究に投じるという仕事もしてみたいと思った。とても長い期間の根気強い研究が、生態の解明につながっていることを知って、これからの理数探究の励みになった。

フィールドワークで世界を飛び回って研究を進めていてとても楽しそうだったので、私の将来の選択肢が広がったと感じます。今までどちらかといえば人間の体の方に関心があったのですが、動物についてもまだわかっていないことが多くあり興味が湧きました。正直動物園に行ってもただ見た目を見て鑑賞していただけだったのでどんな生態を持っているのかなど関心を持っていたと思いました。

軸となる目的の延長線上で、さまざまな研究をされていることが印象的でした。私の中で、研究＝好奇心、という認識があったことに気づきました。大学やその先の進路を考えるにあたって、やりたいことを見つけるだけでなく、なぜやりたいのか、それで何を徳たいのか、など本質的なところを考えてみようと思います。ありがとうございました。

子供の頃の夢を追って、憧れの先生がいたら学部が違って訪れてそこで研究したり、クラウドファンディングで資金を募って現地で調査したり行動力がすごいと思った。これまでは研究の結果を聞くだけでそんな世界があるんだ、と自分とは離れた世界のように思っていたけど順を追って話してくださり想像が付きやすくて楽しかったです。

ユキヒョウの名前は聞いたことがあるのですが、実態はとても希少な動物で、見つけるのが困難であることを知りました。その中でも様々な国や地域に足を運んで研究されていると聞いて、このような様々な発見や体験が、生物学だけでなく様々な学問において学習の余地・分野を開拓する支えとなっているのかと、研究にありがたみを感じました。